

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医保健看護学科

職階 教授

氏名 大倉健宏

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・・・3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

シラバスに記した内容について、学生の理解を前提として、教授することに責任を負っている。社会学概論以外はいずれも社会調査の方法と実践についての科目である。この点では社会調査士養成について責任をもって担当している。受講した学生が将来質問紙による社会調査を行う際に必要な知識を身につけることについて責任を有している。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
社会学概論	食品生命科学科	選択	1	26
社会学概論	環境科学科	選択	1	40
社会学	獣医保健看護学科	選択	2	27
社会統計学	獣医保健看護学科	選択	2	9
社会調査入門	環境科学科	選択	1	46
社会調査法	環境科学科	選択	1	39
社会調査論	動物応用科学科	必修	2	139
社会調査実習Ⅰ	環境科学科	選択	3	4
社会調査実習Ⅱ	環境科学科	選択	3	2
環境保健社会科学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1
質的調査演習	環境保健科学専攻（博士前期課程）	自由	1	1
環境調査演習	環境保健科学専攻（博士前期課程）	自由	1	1

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

教育理念としては学生が、腹にストーンと落ちるような、自前の理解を構築することが大切と考えている。社会調査関係の諸テキストをとりあげているが、学生にとって興味の沸くような素材を用いることが大切と考える。環境科学を専攻する学生にとっては、測定機器を用いて分析することが環境科学と考えているかもしれない。環境は市民の意識を対象とするものであるため、社会調査の方法は重要なものであることを教えたいと考えている。

アニマルサイエンスを学ぶ学生にとっては、ヒトと動物の関係を考えることはヒトとヒトの関係を学ぶことであると理解してほしい。社会学概論を学ぶフードサイエンスを専攻する学生にとっては、文化やコミュニティの観点でフードサイエンスを考えてほしいと考えている。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

教育には即効性のある効果と遅効性の効果があると考えます。理系志向の学生に社会学てきな視点や社会調査の考え方と実践について教えることは、後者であると考えます。麻布大学では社会調査士養成をはじめ15年になる。その間110名を超える資格取得者を輩出したが、職業生活において資格と知識を活かすことがあると考えて教育を行っている。

すべてが遅効性では効果を把握することはできない。そこで両者の中間的な位置づけを見出すことを心がけている。それは授業にて扱った内容を学生がイメージ化できることである。このために重要な概念などを説明する時、例示や例えを多用することになっている。多分例えの内容が、世代的にうったえないものなのであろうか、学生に響かないことがある。この点については、時事的な内容を心がけブラッシュアップを怠らないようにしている。

3年生の社会調査実習Ⅰ・Ⅱでは、社会調査にて得たデータをどんな形あれ学生が卒論に記すことができると考え、そのように指導しているが、地域社会学研究室学生を除いては、実際に位置づけてはいない。相模原市選挙管理委員会での選挙人名簿からのサンプリングは受講学生にとって貴重な体験となるものと考えている。卒論においてある物質を定量的に扱うとしても、その物質の利用についての意識を聞くことは補助線になりうると思うが、なかなか困難である。この点については、学生がとりあげる同実習のテーマが、関心あるから調べました式の、小学生の自由研究になってしまっていると考えられる。貴重なデータを多段階で利用することは繰り返し強調したいと思う。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

社会調査入門、社会調査法においては、教室内での模擬調査を実施した。また社会調査実習Ⅰ、Ⅱにおいては相模原市民200名を対象とした社会調査を実施した。

#### (2) ICTの教育活用

無

できていない。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義科目について社会学、社会統計学について、受講学生を視野としたテキストを作成し利用することで、理解を高める工夫を行った。社会調査入門、社会調査法では教室内での模擬調査実習を行った。社会調査実習Ⅰ・Ⅱでは電子調査票を利用して実施した。

### (2) 学生の理解度の把握

A

課題に対するリプライや課題に対する質問に答えることで理解度を把握した。社会調査入門では小テストを実施して理解度の把握を試みた。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

B

課題に回答してもらうことしかできていない。事前に課題を出しても実施を確認できない。

### (4) 学生とのコミュニケーション

B

教室での対面での対応やメールでの質疑応答を行っている。オフィスアワーを利用する学生は全く見られない。

### (5) 双方向授業への工夫

B

提出された課題に応答することしかできていない。

### (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

該当なし

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

成績評価について、平常点の割合を変更し単位取得率を向上した。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

単位取得率は向上したけれども、単にハードルを下げただけになっている。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

重要なポイントの確認、特に最終回に試験に向けて出題項目について丁寧に説明する。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

課題の提出方法に工夫をしたい。少人数の授業にて課題を共通の用紙に記入させたら、参考にして回答の質が上がるようである。このことを別のクラスでも試みたい。

### (2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

それに該当する評価やフィードバックを受けたことがない。

## 7. 指導力向上のための取組 (FD研修参加等)

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

FD活動にはすべて参加している。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

苦勞している大講義については、履修の条件などを示すこと、まじめな履修態度がないと単位取得に至らないことを理解させる。学生の興味関心に対して、目を閉じているとは思わないが、興味ある内容で授業のなかで扱える内容について、リサーチを行う。もっとも大きな決意は、このぐらいでいいやと自分自身が思わないこと、少しでも改善の余地を見逃さないことである。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

単位取得率リスト、学生による授業評価アンケート